



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



熱田白鳥地区の歴史を聴講する児童(名古屋事務所)



木のあたたかみに触れて 林業の歴史を学ぶ



主な項目

- 小・中学校における総合的な学習へ支援 P2
- 各地からのたより P4
- 寄稿 御神木・林鉄に乗る P8
- シリーズ「森林官等からの便り」 P9
- シリーズ「ご当地自慢」 P10

木質バイオマス発電事業を睨み 県が現地研修会

「名古屋事務所」十月二十一日、「未利用木材の効率的な収集・運搬に関する現地研修会」が、岐阜県可児市兼山地内民有林及び森林整備モデル団地「蘭丸ふるさとの森プロジェクト」において開催されました。

本現地研修会は、十二月から本格稼働となる(株)岐阜バイオマスパワーの事業開始を念頭に、未利用材の収集・運搬をいかに効率的にシステム化できるかなどの検討を行うことを目的として、岐阜県県産材流通課主催、岐阜県森林施業協会及び岐阜県素材流通協同組合共催により開催されたものです。当日は岐阜県内外から六十名余の参加者が集まり、当局からも局・岐阜署・東濃署・名古屋事務所から九名が参加しました。



フォワーダによる実演の様子



意見交換会の様子

研修会では、岐阜県産材流通課長沼課長の開会挨拶、(株)バイオマスエナジー東海代表取締役藤村氏からの「瑞穂市における木質バイオマス発電事業の概要説明」に続き、バイオマス対応型フォワーダによる末木枝条の収集・運搬の実演、ハーベスタ、グラップル、荷台着脱式フォワーダによる未利用材の収穫・採材・収集・運搬作業の実演が行われました。

午後からは現地研修会を踏まえ、パネルディスカッション形式の意見交換会が行われ、名古屋事務所からは、山元所長がパネラーとして出席し、木質バイオマス事業への国有林としての取り組みや立木システム販売等、新たな木材供給の手法などの説明を行いました。

意見交換会では、主伐箇所から生じる端材や末木枝葉の買い取り価格、大型車が通行できる搬出路網開設等の課題の共通とともに、この事業を成功させるため

に全員が協力していくとの強い決意が示されました。

小・中学校における 総合的な学習へ支援 木を使って環境を守ろう！

「名古屋事務所」小・中学校における総合学習は、様々な取り組みが行われていますが、私立愛知中学校では、一年生が「環境」をテーマに数人のグループで「調べ学習」をして取りまとめ、発表を行っています。この度、「森林伐採と生物の絶滅」という研究テーマを設定したグループ六名が名古屋事務所へ学習に訪れました。

生徒たちからは、「森林を伐採するとどんな生物が少なくなっていくのか?」「中部森林管理局では稀少な生物を守るためどんな取り組みをしていますか?」「といった質問が矢継ぎ早に出され、対応した職員は「日本では法律や森林を守る制度などによって、森林の木を伐つたら苗木を植え、育て、再び森林にすることになっており、生物の多様性にも留意しています。」などと、パワーポイントを使用して説明しました。

生徒たちから「木を伐って使うことは環境破壊だと考えていたが、伐って使ってまた植えて育てる、ということ循環型社会が形成され環境が守られることがわかった。」「木製化にしていく重要



「木曾式運材」のビデオを視聴する生徒

職員への聞き取り学習の後は、展示室の見学、マイ箸づくり、架線集材のジオラマでの集材機の運転体験を行うなど有意義な一日となったものと考えています。

昔から公園だったのかな?

十一月五日には、名古屋市立白鳥小学校の六年生六十名が、「熱田白鳥地区」の歴史を学ぶため名古屋事務所を訪れました。

今では白鳥公(庭)園や大学、国際会議場などが立ち並び名古屋事務所周辺ですが、かつては水中貯木場がありました。

江戸時代の初期、名古屋城築城を契機に木材市場発祥の地として歴史の幕を開けた「白鳥貯木場の始まり」について職

員がパワーポイントやパネル写真を用いて説明を行いました。



集材線のジオラマで学習する児童

歴史を学んだ後の自由時間では展示コーナーでジオラマの操作や、実物のチェーンソーの重さに触れ「こんなに重い物を持つて木を伐ることできるの?」と驚くなど見慣れない林業機具を新鮮な表情で観察していました。

「森林ボランティア・NPO連携推進会議」

十周年を迎えて

「木曽森林ふれあい推進センター」十月三日・四日の二日間、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」が、諏訪郡下諏訪町にて開催されました。この会議は、中部局管内で活動する森林ボランティアやNPO団体間での交流促進、相互研鑽を目的として開催しているもので

す。今年は記念すべき十周年の節目を迎え、長野県の後援、地元下諏訪町の共催を得て、参加団体数十六、人数は過去最高の七十四名と大変賑やかな会議となりました。

初日は、参加団体の見識を広げるための講習会を行うこととし、「御柱祭」で有名な諏訪大社の下社秋宮において、諏訪湖博物館館長の宮坂徹氏から、建造物の構造や意味、諏訪大社の歴史や祀られた神々の神話等、大変興味深い説明があり、誰もが真剣に聞き入っていました。

その後、秋宮の社殿に施された松皮葺屋根について、京都の社寺等屋根工事技術保存会大野浩二氏、栗山弘忠氏を講師に、実物の檜皮を手に取りながら、材料の取り方から加工の技術、葺き方までの説明があり、参加者からは伊勢神宮との葺き方の違いや竹釘の強度などに質問が



下社秋宮で説明を受ける皆さん



参加された皆さん

及び、卓越した伝統技術が継承されていることに皆さん感心しきりでした。

秋宮境内等では、下諏訪町木遣保存会により特別に「木遣り唄」を披露していただき、参加者全員で両手を振り上げ「ヨイサー！ヨイサー！」の掛け声を合わせました。諏訪大社下社にまつわる様々な伝統文化に触れ、活気溢れる初日が終了しました。

二日目は、恒例の「森・ふれあいフェスタ」を、諏訪湖畔にある「みずべ公園」にて開催。今回は、土からできた不思議な絵の具を使ったパスアートや竹とんぼ、竹笛作りに加え、薪割り体験や松皮葺体験、チェーンソーアート実演など大人でもワクワクする充実した内容となりました。今年初めてのブースとなる「檜のマイ箸づくり」や年輪を知るため

の「baumクーヘン作り」は特に子どもたちが集まり、待ち時間が発生してしまふほどに人気を博しました。

また、下諏訪町のゆるキャラ「やしまる」と「万治くん」の登場で会場をさらに盛り上げてもらい、累計八百名の参加者に木や自然素材の数々と触れ合ってもらう機会をつくることができました。

参加した各署・所の職員も、様々なスキルを持った団体の技術と接する機会となり、二日間を通して充実した連携・交流の場となりました。

技術者育成研修



「森林技術・支援センター」森林総合監理士（フォレストア）育成のため、その候補者となる技術者育成研修（中部ブロック研修）を九月九日～十二日までの四日間、下呂温泉旅館会館及び岐阜県管内の乗政国有林、七宗国有林をフィールドに実施しました。

この研修は既に実施済の技術者育成研修（中央研修）修了者の現地実習等を主体に行うもので、中部地方など七県から県、市町村、国有林の職員の二十七名が受講しました。

研修では、市町村森林整備計画や森林経営計画の概要・演習、路網と作業システム、森林施業の集約化など多岐にわたるカリキュラムを通じ、地域の森林・林業関係者を的確に支援・指導できる人材

「森林技術支援センター」十月七日～十日の四日間、森林技術・支援センター及び小川長洞国有林において、森林技術研修を実施しました。この研修は森林整

森林技術研修



育成を目的としています。受講者の皆さんには、フォレストスターに必要とされる「技術力・構想力・合意形成能力」の習得を目指し、積極的に研修に参加していただきました。

研修終了後は、市町村森林整備計画の策定等の支援業務を行うこととしており、この研修で得たネットワークを活かしながら地域の森林・林業の再生、山村地域の活性化に大きく貢献されることが期待されています。



研修の様子



現地実習の様子

備事業体の監督・指導等に必要となる森林技術の向上を図ることを目的に実施するもので、各署の経験の浅い森林官等、六名が受講しました。カリキュラムは、「集材作業に関する知識」「集材施設の概要及び集材機の操作、各種設備点検方法」「伐木造材及びチェーンソーに関する知識」「安全関係法令等に関する知識」等多岐にわたり、実際に集材機・チェーンソー・刈払機・バックホウの操作を体験しました。なかでもチェーンソーの伐倒及びかり木処理・造材の実技では、安全な作業方法について、熱心に講師の指導に耳を傾けていました。今後は、今研修で学んだことを実際の業務に活かすとともに、森林技術の向上のため、さらなる自己研鑽が期待されることです。



看板設置の様子(美ヶ原)

【美ヶ原班】松本市美ヶ原を中心に百名山「王ヶ頭」の周辺で活動し、観光客のマナーの向上や希少種の保護活動に貢献するとともに、観光客に対して花の名前や遠方の山の名前を説明しています。指定希少野生動物植物であるアツモリソ

各地からのたより

GSS活動を振り返って

【中信署】中信森林管理署ではGSS（グリーンサポートスタッフ）として六月十六日～十月三十一日まで十一名を任命し高山植物保護や美化活動、公園利用者へのマナー指導等を行ってきました。

十月三十一日に今年度の活動を終え、GSSの終了式と併せて活動報告会を実施しました。各班の特色と活動報告について紹介します。

ウをニホンジカの食害から守る取り組みとして、新たに電気柵の設置を行い、その成果も少しずつ現れてきました。

【上高地班】松本市上高地を中心に観光客へのマナー向上を目的に各法律による制限の周知をはじめ、地域のルール説明や各行政機関及び関係者と協力しながら希少種の保護活動、外来種の除去、サル追い活動を行っています。また、これらの活動に併せて美化活動や危険木の点検等を行っています。上高地では、その他の団体によるパトロールも行われていますが、多くが集団施設地区を中心としており、GSSによる広範な活動が高山植物等の保護や観光客のマナー向上に大きく貢献しています。



歩道整備の様子(上高地)

【乗鞍班】松本市乗鞍を中心に活動しています。乗鞍岳は標高二千七百メートル地点までバスによる乗り入れができ、比較的気軽に登山ができること、また大雪

溪ではスキーが楽しめ、ハイマツ地帯ではライチョウが生息しています。

関係機関と連携した外来種の除去活動ではセイヨウタンポポやアラゲハンゴンソウの除去を行いました。

マイカー規制から十一年が経ち、年々高山植物の増加がみられています。



外来植物除去の様子(乗鞍)

今年度、各班共通して、高山植物等保護対策協議会で作成した四方国語で高山植物等の保護を表記したトレーディングカードを観光客等に配布したところ、「子どもから年配者まで大変に人気があり、山や植物の説明をするにも好印象で、マナーについても素直に聞いてくれた。」との報告がありました。

今年度は天候に恵まれず、乗鞍ではクマの出没が頻繁にあり、集客率はどこも低かったと思われます。そんな中でも中信署GSSの果たす役割は非常に大きいこ

とから、来年度以降も活発なパトロール活動を行っていきけるように取り組みたいと考えています。

韓国の林業関係者が来署

〔岐阜署〕十一月六日、韓国の林業関係団体（韓国アカデミー）の方々二十五名が当署を視察されました。

最初に会議室で、日本の森林の状況、公共建築物の木造化の取組、中部森林管理の業務内容等について説明しまし



業務等の説明を聞く皆さん

通訳を介しての説明となり、うまく伝わったかどうかは疑問も残りますが、木材利用に関し、日本の木材自給率、木材の輸入先、署庁舎の新築にあたっての使用樹種や使用量等の質問がありました。

その後、超高齢級人工造林地「赤沼田天保林」を案内しました。林内で、森林官からの説明を聞きながら林内を散策後、帰路につかれました。

富山県地域振興団体協議会

担当課長会議及び現地研究会

〔富山署〕十月十日、大牧国有林、大規模な集成材を使用した水見漁港場外市場の「水見番屋街」及び木の住まいの魅力を学ぶための「ウッドリンクラボ」において、富山県地域振興団体協議会担当課長会議及び現地研究会を開催しました。

この協議会は、国有林等地域部会をはじめ七部会が設置され、当面する諸課題の解決や地域の振興発展に取り組み、その活動の一環として当署との共催で平成十九年度以降、この会議及び研究会を毎年開催しています。



丸太残存型枠を使用した谷止工



水見番屋街の内部

今回、国有林野事業の紹介として、木材を多く利用している大牧国有林の治山工事を案内しました。この箇所は、平成二十年七月の集中豪雨により、山地荒廃が発生し、市道祖山線・国道一五六号線をはじめ下流の大牧温泉・小牧ダムに被害を与える危険性が高くなったため、緊急性を要する箇所から順次治山事業を進めています。

当日は、市町村の課長等十五名が参加されました。この現地視察により、国道や市道を守るために、発生源の山腹崩壊の復旧や溪流に堆積した土砂の流出を防止する必要性について理解を深めていただけたものと考えています。

水見番屋街では、大規模な施設でも集成材を活用し建築できることを実感し、目に見える柱・梁等にふれることで、木



赤沢会場の様子

の持つ「ぬくもり」を感じることができました。

また、ウッドリンククラブでは、「木の魅力」を五感で感じたり、省エネ・耐震対策等についても学ぶことができ、木の住まいの魅力を発信しています。

引き続き、国有林野事業のPRと木材利用の推進がさらに図れるよう、会議・研究会をより充実したものとしていきたいと考えています。

木曾のポーは一〇〇歳！

「木曾署」九月二十八日、上松町において、木曾森林鉄道ポールドウイン号生誕一〇〇周年記念イベント「木曾のポーは一〇〇歳」が開催されました。

このイベントは、「木曾のポー」の愛称で親しまれているポールドウイン号車の生誕一〇〇周年を祝って開催された

もので、現在森林鉄道が運行されている赤沢会場と上松駅前会場の二会場で開催されました。

開会式が行われた赤沢会場では、上松町長よりポールドウイン一号車へ感謝状と記念のエンブレムが贈られた後、実際に汽笛を鳴らしての乗車体験やモーターカーの運転体験、記念撮影などが行われ、普段触れることができない汽笛の吹鳴体験では長蛇の列ができていました。

上松駅前会場では、ミニSL版ポールドウイン号の体験乗車、木曾森林鉄道資料や写真パネルの展示、記念グッズの販売、森林鉄道軌跡を巡るウォーキング大会など多くの催しが行われました。

また昨年からは長野朝日放送が、木曾森林鉄道と赤沢自然休養林を取材して制作した、「ポーおばあちゃん」の上松町で過ごした生涯を描いた特別企画番組も放映され会場を一層盛り上げました。

このイベントは、上松町内の観光、教育、NPOなど、幅広い関係者により企画実施されたもので、上松町と国有林野事業との深い関係を感じることができました。秋の晴天の中、大人から子どもまで「鉄ちゃん」になりきって楽しんだ一日となりました。

森林ふれあい推進事業での

協定締結による

NPOとの連携イベント

「中信署・技術普及課」九月二十七日に

長野県北安曇郡松川村馬羅尾国有林において「四季の森めぐり〜あがりこサワラを見に行こう〜&森林整備で森元氣〜」と題したイベントを、NPO法人やまぼうし自然学校と共催で実施しました。

これは、森林・林業の普及啓発を目的として、国有林を利用したイベントの企画運営が可能なNPO等の団体と協定を締結して行う「森林ふれあい推進事業」の一つとして行ったものです。



あがりこサワラ

当日は、ホームページや募集チラシを見て集まった親子連れや高校生等二十三名が参加し、目的地の「あがりこサワラ」に向けて林道を歩きながら「ネイチャービンゴ」を実施。花や木の実、キノコや大きなカエル等を発見するたび、「あつたよー!」と嬉しそうなお声が響きました。到着したあがりこサワラの前では、誰もがその巨木の神秘的な樹形に驚き、あがりこの成り立ちについて職員から説明を受けると、百年以上も昔の森と共存してきた先人たちの暮らしに思いを馳せていました。

昼食には、皆で拾い集めた朴葉を使っ

た、やまぼうし自然学校特製の「朴葉味噌」が登場。皆と一緒に食べるこうした野外料理は、森での活動をさらにワクワク盛り上げてくれます。



初めての除伐体験

休憩後は、中信署と技術普及課の指導の下「除伐体験」を実施。立っている木を伐るのは初めての参加者が多く、息を切らしながら慣れないノコギリを懸命に動かして汗を流していました。玉切り作業をしながらヒノキの断面の香りを楽しむ親子の姿もみられ、一様に清々しい笑顔でイベントを終えました。

貴重なあがりこサワラの森が、今後も松川村の歴史を学ぶ貴重な資源として学習面や観光面からも活用されることに期待しています。

東山道（とうざんどう）

もみじ祭り

「東濃署」十月十九日、中津川市神坂地区において「東山道もみじ祭り」が開催され、「紅葉を楽しみながらウォーキング」を始め、豊かな自然を活かした各種イベント、地元特産品等の即売、餅投げ、地元の味噌を使用した豚汁サービス

などが行われました。

「紅葉を楽しみながらウォーキング」は、湯舟沢国有林の中にある「森の巨人たち一〇〇選」に認定された神坂大檜や神坂峠・富士見台高原周辺に広がる紅葉を楽しむイベントです。東濃森林管理署では森林官をはじめとした署職員が案内役となり、森林整備や治山事業の大切さを紹介しました。ご案内した参加者は七十五名にのぼり、用意された大小のマイクロバス三台に乗りきれず、一部の方については、参加をお断りするほどの盛況となりました。また、当署が道具などを提供した、地元中学生主催の「丸太切り体験」も人気を博しました。



紅葉を楽しむ皆さん

東山道とは、古代の律令時代に設けられた七道のひとつで、近江（滋賀県）を起点に、美濃（岐阜県）・信濃（長野県）を経て陸奥・出羽国（東北地方）に通じていたとされる官道で、中でも最大

の難所といわれた神坂峠（みさかとうげ）は、「ちはやふる神の御坂に幣（ぬさ）まつり斎（いほ）ふ命は父母のため」と、万葉集にも歌われ、一三〇〇年の歴史・ロマンが香る古道として地域の方々から大切にされています。

地域で開催される各種イベントへの参加を通して、地域の方をはじめとして多くの方に国有林のサポーターとなつていただけるよう努めていきたいと考えています。

伐採・造林作業一貫システムの勉強会

【愛知所】 九月五日、段戸国有林において、「伐採・造林作業一貫作業システム」の勉強会を開催し、愛知森林管理事務所の事業担当者がそれぞれの取組みについて説明をしました。

愛知県では林業再生をテーマに、造林から伐採・流通までのコスト削減に向けたシステムの普及・啓発に努めており、国有林の高性能林業機械とコンテナ苗を活用した伐採から造林までの一貫作業システムの取組を勉強したいとの愛知県の要請を受けて開催したものです。

当日は、小雨の降る中で、愛知県庁をはじめ各農林水産事務所林務担当職員、新城市産業・立地部森林課の職員、当所職員等約三十名が参加しました。

午前中、コンテナ苗の生産について、苗木生産者の前田樹苗園さんより説明を



コンテナ苗の植付の様子

受け、約一〇〇本のコンテナ苗を全員で植え付ける体験を森林整備官の指導で行いました。

午後は、先進的林業機械を使用し、一貫作業システムを実行している現場において、作業システム、コンテナ苗の植付けの説明、さらに全木集造材で発生する枝葉をチップ化するチップヤードを視察し勉強会を終了しました。

それぞれの作業の流れの中で、コンテナ苗の生産コスト、作業システムの生産性、バイオマス原材料の流通、獣害対策等熱心に意見交換が行われ、当所が取り組んでいる「伐採・造林一貫作業システム」について理解を得ていただく良い機会となりました。

生産性向上現地検討会

【北信署】 十月三日、管内の飯縄山国有林において、製品生産事業における生産性向上現地検討会を開催しました。

この検討会は、地球温暖化対策と併せて木材の持続的供給の観点から、高齢化が進行している人工林の若返りを図るための効率的な主伐・再造林の実施方法を考えるために開催したものです。

当日は生憎の曇り空でしたが、東信署や富山署の職員をはじめ、東北信地区の素材生産請負事業者、県関係者に加え、関東局上越署の職員など総勢二十九名が参加しました。



林地残材コンテナをフォワーダ運搬

当署では、集造材等により発生する端材等の林地残材をバイオマス発電用資源として販売しており、中でも比較的生産性の高い宮澤木材産業株式会社が実施している間伐事業地において、伐倒から集造材、林地残材の搬出に至る作業を視察し、宮澤木材産業専務の宮澤氏から実行上工夫している点や留意点について話を

聞きました。参加者からは、林地残材をコンテナに詰めてフォワーダで搬出する工程に関する質問が多く出されました。

午後からは、林地残材等を実際に利用して発電を行っている、長野森林資源利用事業協同組合の「いいづなお山の発電所」に会場を移し、バイオマス発電の仕組みや木質燃料の供給実態について説明を受けた後、林地残材や建築廃材等を実際にチップに加工する様子を見学して検討会を終了しました。

生産性は、単位労働量当たりの出材量であることから、地形的条件等で作業効率の向上に限界があるとすれば、林地残材等の有効活用により出材量を増加させることが生産性向上のための一つの手法だと考えます。

地元高校生が森林土木事業 (治山工事) の職場体験

〔東濃署〕 十月八日～十日までの三日間、岐阜県立恵那農業高等学校環境科学科二年生の生徒二名が、東濃署において治山事業の職場体験を行いました。これは、地域の未来を担う高校生に、日頃は目にする機会の少ない森林土木に対する理解を深めてもらおうと、請負事業体の協力も得て、今年度から新たに始めた取り組みです。

参加した片田隆貴君と村本圭士郎君は加子母裏木曾国有林 (中津川市加子母) の山腹工事現場において監督業務 (法切

工の出来形確認) の補助作業、上村恵那国有林 (恵那市上矢作) の復旧治山工事現場において丸太筋工の施工を体験しました。

また、署員の指導を受けてポケットコンパスによる縦断測量とトータルステーション (光波測距儀とセオドライトを組み合わせたもの) による横断測量を行いました。さらに、測量した成果を用いて、建設CAD (専用ソフト) で平面図、縦断面図、横断面図を作成する実習にも取り組みました。



丸太筋工の施工を体験

体験した生徒からは、「治山工事についての専門知識や現場の雰囲気、社会人としての心構えなどについて学ぶことができました。」「山腹工事現場では、とても危険な現場作業をしている方々を見て自分もあんな仕事をやってみたいと思いました。」「特に丸太筋工の作業は、とても疲

れたけどいい体験ができました、楽しかったです。」「との感想がありました。

当署としては、これからも高校生の森林土木に関する興味と関心を高め理解を深めることができるよう、取り組みを重ねていくことにしています。

寄稿

かつて木曾ヒノキや天然広葉樹を運材し、地域住民に愛され続けてきた森林鉄道に関する思い出や楽しい出来事などを、OBの皆様から、ご寄稿いただきました。国有林の歴史を示す貴重な財産としてここに掲載させていただきます。

御神木・林鉄に乗る

元長野局作業課 向井弘氏

第六十一回伊勢神宮式年遷宮 (平成五年) の御杣始祭が、昭和六十年六月三日、上松営林署小川入国有林で挙行された。

この神事は、御神体を奉安する御器を造る御樋代木 (御神木) を伐採する祭で、内宮材の上に外宮材が交叉するように伐倒される。伐倒された御神木 (木曾ヒノキ) は、六・六メートルに玉切り (末口六十センチ) され、集材線下まで人力木寄せ、集材機により赤沢森林鉄道保存線の特別仕立てされた台車に積込みました。午後三時半、御神木を乗せた台車を

一三一号機関車が牽引し、五百メートル先の森林鉄道資料館停車場へ向けて、赤沢の山一杯に響き渡る警笛を鳴らし静かに出発、途中「あすなる橋」で一時的停車し見学者へのサービス、そしてカメラの放列の中をゆっくり進み、十五分かけて停車場に到着した。



御神木運材列車 (右下は御神木の仮奉安所)

停車場からは、トラックで仮奉安所前の広場に移され、仕上げ、化粧掛けが行われ、一晚安置、翌日上松町に向けて出発した。

御杣始祭から十日後の六月十三日、この祭で支障木となり伊勢神宮に立木処分された材 (木曾ヒノキ、五メートルに玉切り) を二組の運材台車に積込み、十時三十分、一三一号機関車が牽引する森林鉄道最後の運材列車が発した。その後、赤沢森林鉄道保存線が観光用として復活し、多くの人々が赤沢自然休養林を訪ねている。



「東濃署 西股森林事務所」

地域技術官 小幡 雅和

西股森林事務所は、岐阜県中津川市の北東に位置する付知町に所在し、旧加子母村と旧付知町内の国有林約七二〇〇畝及び公有林野等官行造林地（二団地）一四〇畝を管理しています。

管内は、裏木曽県立自然公園に指定され、付知峡自然休養林（五二一畝）をはじめ、周辺地域にはオートキャンプ場や不動滝、護山神社奥社などの名所があり、初夏から晩秋にかけて多くの観光客が訪れます。



木曾ヒノキ備林

当森林事務所の加子母裏木曽国有林には、木曾ヒノキを主とした天然林やブナ、ミズナラなどの広葉樹林の彩り鮮やかな森林が広がり、なかでも木曾ヒノキ備林（旧神宮備林）では、歴史的伝統を継承する式年遷宮の伐採式が二十一年一度行われています。

木曾ヒノキ備林の周辺では、木曾ヒノ



収穫調査の様子

キを主とした林木遺伝資源保存林（四四畝）、ヒノキとサワラの合体木（樹高三六メートル、樹齢およそ五六〇年）、名古屋城本丸御殿の伐採式跡地や二代目大ヒノキ（直径一五四センチ、樹高二六メートル、樹齢千年）の雄姿を見ることが出来ます。初代大ヒノキは昭和九年の室戸台風で損壊し、現在では四枚の輪切り板が、「ふれあいのやかたかしも」（中津川市加子母）、護山神社（同市付知町）、瀬戸国有林森林文化交流館（愛知県瀬戸市）、名古屋科学館（名古屋）にそれぞれ保管され、当時の雄姿を後世に伝えていきます。

同国有林内には、付知峡自然休養林が設定されており、裏木曽の深山から西股谷を落下する荘厳な「高榎の滝」（落差二二メートル）など、新緑から紅葉シーズンまで多くの観光客が訪れます。

また、「ランプの宿」で知られる「渡合温泉」や「高時山」、「小秀山」への登山は知る人ぞ知る名所としてリピーターが多く訪れています。

当森林事務所は、首席森林官一名、地域技術官一名、森林技術員三名の五名の職員で生産請負事業や森林整備事業などの監督業務のほか、自然休養林や木曾ヒノキ備林の案内、来訪者の安全確保のための修繕・管理業務とともに、この時期の主な業務として、収穫調査、境界巡検、林道修景、遊歩道の修繕等の業務と多岐にわたる業務を行っています。



境界巡検の様子

この森林事務所に地域技術官として配置され、森林事務所の各種事務や調査、監督業務を戸惑いながらも森林官や森林技術員の皆さんに支えられながら安全第一に業務を進めています。これから冬期間に向かって益々現場の作業環境が厳し

くなります。事務所職員一丸となって今年度の事業が無事故・無災害で遂行できるように取り組んでいきたいと考えています。

（今回の森林官からの便りは、西股森林事務所所属する小幡雅和地域技術官から投稿されたものです。）



森林事務所職員と（前列中央が筆者）

人のうごき

中部森林管理局人事

十一月一日付

▽職務復帰（南信署森林整備官）

森田千恵子

行事・会議等の予定

◎養成研修（森林官養成科）

12月3日～12日 中部局研修所

◎次世代架線集材作業勉強会

12月16日

中部局



◆山口市

山口市（やまがたし）は、二〇〇三年旧山県郡の三町村（美山町、高富町、伊自良村）が合併し誕生しました。岐阜県内では平成の大合併で誕生した最初の市になります。

ここでは、山口市の北部美山地域を中心に紹介します。

◆製材の町

美山地域はかつて全盛期には一〇〇軒以上の製材所が軒を連ね、三十年前には七十軒弱、現在は十八軒とその数は激減



スギ板の天然乾燥

していますが、今でも国道四一八号線沿いとその周辺には、スギ板の製材品を天然乾燥する光景があちこちに見られ、車から降り立つとスギの良い香りに街中が包まれています。

家内工業的に営んでいる製材所が、七割ほどを占めていることから、乾燥機をもたず従来からの天然乾燥が多いようです。製材品はスギ板のみで、扱いても容易なことも天然乾燥が続いている要因なのでしょうか。



あちこちで見られる天然乾燥の様子

この地域で最も大きな製材所の社長さんに話を聞きました。

薄いスギ板を扱っているので、乾燥には一番気を使うそうです。割れたり、反ったり、また、板を天然乾燥する場合、元を上にして立てて乾燥するが、上と下では乾燥の度合いも違ってくるとか…苦勞も多いけど「やっぱり天然乾燥は

感じが違うんだよ。」とおっしゃっていました。この製材所では天然乾燥したものを人工乾燥機でさらに含水率を下げ品質を均一にしてから出荷しているそうです。

製材所の一角では、レーザーを使った加工所もあり、名刺大サイズ厚さ一・五ミリ程度のスギ板に名刺を印刷したものも製作していました。「名刺入れには入りませんが」と笑っておられました。

◆神崎川

市の最北部には神崎国有林がありま

す。ここを源流とする神崎川は、透明度が高くすばらしい景観です。



神崎川

神崎川沿いには、コテージやキャンプ場などを備えた施設があり、年間三万人弱の方が訪れています。中京圏の都市部からも比較的近く、しかも本物の自然

が満喫できる場所となっております。利用される七割が名古屋方面からのお客さんです。

◆明智光秀公の墓

明智光秀は本能寺の変の後、山崎の戦で敗れ、その後、逃げるところを落ち武者狩りに遭い命を落とされたというのが定説となっていますが、この地には、山崎の戦で死んだのは影武者で、明智光秀公はその後、別名を名乗りこの地に住んでいたとの言い伝えがあります。

中洞白山神社の傍らには「明智光秀公」の墓があり、地元の方々によって祀られています。



明智光秀公の墓

◆アクセス

東海環状自動車道、関広見ICから国道四一八号線を経て約二十五分で、山県市役所美山支所